



LRQA road to success

ISO/IEC 27001 情報セキュリティマネジメントシステム 事例紹介

製造業の将来を見据えた ISMSの構築

ISO/IEC 27001認証



Company Profile

旭陽電気株式会社

〒407-0043

山梨県韮崎市神山町鍋山 300

TEL.0551-22-1667 (代)

代表取締役会長兼社長 金山 光雄

業種：電子部品製造・EMS・社会インフラ（販売・施工・保守）

<https://www.kyokuyo-e.co.jp/>



2023年9月15日に行われた認証授与式にて

旭陽電気株式会社様（山梨県韮崎市 代表取締役会長兼社長 金山 光雄 様）は、ISO/IEC 27001（情報セキュリティマネジメントシステム）認証をLRQAより取得しています。

ISO/IEC 27001は、情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）の国際規格です。規模や業種を問わず、あらゆる組織に対して、包括的な情報およびサイバーセキュリティ戦略のための強力な基盤を提供します。

旭陽電気株式会社様は、半導体製造装置のケーブル・ハーネス製品の設計、製作ならびに資材調達、組立、調整、検査、現地取付など一連の業務を一貫して受託するEMS（電子機器製造受託サービス）事業や行政向けの電気通信機器等の施工・販売・保守をおこなう公共インフラ事業を展開する企業として活動されており、今回は社会インフラ事業部にて「通信機器の施工・メンテナンス及びソフトウェアの販売・開発に関する情報セキュリティマネジメントシステム」を対象とし認証取得されました。

取材日：2023年9月15日

今回は代表取締役会長兼社長 金山 光雄様、専務取締役 金山 雄一郎様、取締役 社会インフラ事業部統括部長 長田 幸夫様、社会インフラ事業部 主任 藤田 春磨様より、ISO/IEC 27001の認証取得の経緯や構築で苦労した点、今後の展望などについてお話を伺いました。

御社について簡単にご紹介ください。

弊社は1968年に「旭陽電気製作所」の名称で創業しました。創業翌年に大手電機メーカー様と取引基本契約を締結し、電子部品の製造を手掛けるようになりました。1970年に株式会社に改組、1982年には大手電機メーカー様からの依頼で販売店契約を締結し、製造に加えて販売代理店事業を開始することになり、最終的には製品の設計から保守点検に至るまでのすべての工程に着手することになりました。大手電機メーカー様の製品に30年以上関わった経験を高く評価していただいたこともあり、2001年に同じく山梨県韮崎市に本社を持つ大手電気機器メーカー様との契約が始まり、これを機に弊社の事業もさらに大きく成長いたしました。

今回のISO/IEC 27001を認証取得した社会インフラ事業部は、河川・ダムなど計測制御システムの施工保守点検、水道料金システムの開発保守、コンピュータ機器の販売や防災行政無線の施工保守点検を担当しており、安心・安全な社会インフラを構築するための一貫したサービスを提供しています。



代表取締役会長兼社長 金山 光雄 様

現在は、電子部品（ハーネス）製造事業、EMS（電子機器製造受託サービス）事業、社会インフラ事業の3つを主な事業として事業を展開しています。私たちKYOKUYOグループは、社会をより良くしようと取組むお客様の「ビヨンド（先）を提供するパートナー」として、迅速で、高品質な製造はもちろん、お客様の要望の更に先を提供する企業として取組んでいます。社会の進歩を開発・生産するお客様を支える、「万能コネクターカンパニー」として、また社会の進歩を支える万能なパートナーとして、技術とものづくりを通して世界中の技術発展に貢献できるように活動しています。

今回ISO/IEC 27001の認証を取得されようと思ったきっかけは何だったのでしょうか？

最初のきっかけは地方公共団体への入札でした。弊社の社会インフラ事業部は地方公共団体向けにソフトウェアやシステムを販売しています。販売するためには入札に参加する必要がありますが、入札要件にISO/IEC 27001認証やプライバシーマークの取得が求められるようになりました。またマルウェア（悪意のあるプログラム）被害や不正アクセス等、昨今のセキュリティインシデントの影響は弊社も重々理解しておりましたので、時代のトレンドとしてISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）を会社として導入しなければ先々の業務継続が厳しいという議論が社内であったため、当初よりISO/IEC 27001の認証取得を検討しておりました。

ちょうどその頃、某製造メーカーがマルウェア被害を受けた影響で、大手製造メーカーの生産ラインが一時的に稼働停止に陥るニュースが全世界で大きく報じられ、製造業でもサイバー攻撃が新たなサプライチェーン上のリスクとなることが大きくクローズアップされました。

また並行して、主要取引先からもサプライチェーンマネジメント強化の一環として、情報セキュリティ対応への確認事項が厳しくなっていた時期でもありました。弊社として

も事務局の設立や研修を実施しながら対策を強化してきましたが、先々の事業展開の継続性を考慮し、主要取引先から求められる要件以上の体制を社内で構築できれば、後々のサイバーリスクにも対応できるのではないかという議論が後押しになって、ISO/IEC 27001を認証取得することになりました。



専務取締役 金山 雄一郎 様

ありがとうございます。認証取得に関して苦労された点、工夫された点はありましたか？

現状や社内の状況などを確認した際に、想定しているよりも多くの課題がありましたので、社内の水準を認証取得レベルまでに上げることが大変苦労した点です。私自身（藤田 様）が主に事務局として文書関係の管理や作成等を担当していることもあったので、求められる活動や水準をどのように他の従業員に周知させていくか、どこにフォーカスすれば周囲を巻き込んで進められるかという点はとても考えさせられました。



社会インフラ事業部 主任 藤田 春磨 様

認証取得に向けてどのように社内の方を巻き込んで進められるかという点は、多くの方が苦労されています。

はい。特に情報セキュリティは、普段行っている小さな慣習が、情報漏洩やランサム

ウェア（データを暗号化して使用できない状態にした上で、その復元の対価として金銭を要求するマルウェア）被害等の大きな事故に繋がる世界です。そのため一方的な指示にならないように、普段の活動が重大な事故につながるイメージを想定してもらいながら、対話形式で周知活動を実施しました。規格の要求事項に併せるにつれて弊社の求められる水準も上がっていくので、ベースにある教育の所にもあらゆる要素を追加しながら進めるようしました。継続的に弊社の教育水準を上げる活動は非常にチャレンジングな事だと改めて痛感した次第です。

既にISO 9001とISO 14001を認証取得されていますが、その経験は役に立ちましたか？

PDCAを回して常に向上させていくISOの基本的な概念はISO/IEC 27001でも変わらないという印象でしたので、ISO 9001とISO 14001で得た経験は活かされたと思っています。しかし分野が違えば取り組む内容も人も変わってきます。実際には、関わる人の意識が情報マネジメントシステムを構築する上で最も重要な要素だと思っています。今回の過程で言えば、従業員のセキュリティに対する意識、知識、またコンプライアンスの重要性等を一定レベルまで浸透できたことが、大きな成功要因だと思っています。

ありがとうございます。認証取得についてのメリットに関してはどのようにお考えでしょうか？

まず一つ目は投資という面です。先ほど説明させていただいた地方公共団体への入札だけでなく、弊社が製造する電子部品はグローバル規模で展開されていますので、国際市場でのビジネス展開に大きく貢献する要素だと考えております。国際規格であるISO/IEC 27001であればグローバル市場においてアピールが容易であるという点は魅力に感じています。認証取得という投資を行うことで主要取引先やグローバル市場から信頼していただき、その結果弊社の業績拡大に繋がっていくと考えていますので、

まず投資という観点で捉えています。

もう一つは社内のセキュリティ管理を強化するという面です。私たちのような製造業では、これまでどちらかというと品質や労働安全衛生を中心に着手してきました。しかし昨今セキュリティインシデントが多数発生していることを考慮すると、これからは製造業でもセキュリティ管理が必須になると考えています。弊社では既に顔認証システム等を通じてセキュリティ管理を強化していますが、社内システムだけでなく全従業員の意識を高めいくことも必要だと思っています。



取締役 社会インフラ事業部
統括部長 長田 幸夫 様

そのためにはやはり人材育成・教育といった面が大きな役割を果たすと考えています。今回の認証取得の過程の中で、仮に弊社でサイバー攻撃によってシステム障害が発生してしまうと、主要取引先に対して大きな影響が出てしまう状況を再確認しました。実際にかなり秘匿性の高い装置も製造していますので、その事実を全従業員がどこまで認知しているかが重要な事だと思っています。装置というのは、知識のある方が少し見るだけで簡単に情報を盗める仕組みになっています。そのため、例えば写真一枚でも撮影してはいけない、外部に渡してはいけないといった基本的な危機意識を全社で共有できているか、そのためにはどのような研修や教育が必要なのかという議論は必要だと思っています。この方向性は、今後弊社だけでなく製造業全体で求められてくるものだと認識しています。

LRQAを選んでいただいた理由と審査の感想はいかがでしたでしょうか？

弊社ではISO 9001とISO 14001をLRQA様から認証取得しています。毎回LRQA様より質の高い審査をご提供いただいておりますので、今回のISO/IEC 27001認証もお願いさせていただきました。厳しく審査いただいた箇所もありましたが、弊社の状況を色々と考えていただきながら丁寧に審査していただいた印象です。弊社としてもより良いISMSを構築したいという思いがありましたので、審査でしっかりと見ていただいた点に関しては感謝しています。認証取得はゴールではなくスタート地点と捉えています。今後も良いビジネスパートナーとして末永くお付き合い頂ければと思っています。

ありがとうございます。最後に今後の展望に関して伺っても宜しいですか？

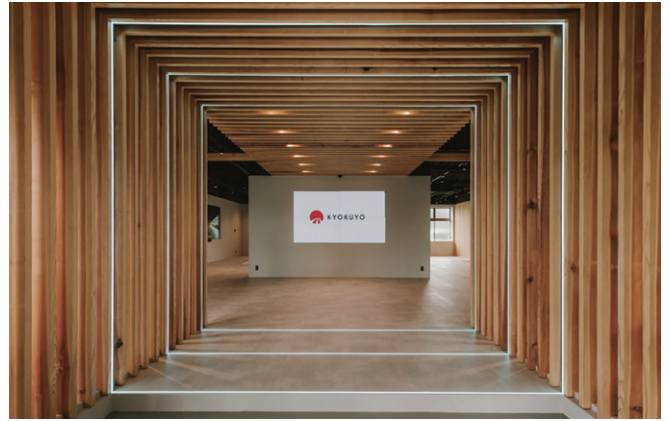
ISO/IEC 27001認証をどのように弊社の事業に活用していくかという点が重要だと考えております。弊社では既に最先端の技術に着手しており、例えば山梨県内初となるキャリア5Gアンテナの設置や、AI・自動化・ロボティクス等のデジタル技術を活用する「KYOKUYOのDX戦略」を掲げています。いずれの最先端の技術もICT（情報通信技術）がベースとなるものですので、最先端の技術を推進する一方、セキュリティ対策も万全であるというメッセージを発信することが、信頼性の向上に繋がると考えています。今回の認証は社会インフラ事業部で取得しましたが、引き続き全従業員を対象に会社全体としてセキュリティ管理を強化する必要があります。今後もISO/IEC 27001認証を通じて、より良い社内文化への構築に繋がりたいと思っています。

本日はありがとうございました。



●2023年8月に完成した荏崎工場の様子

来客をおもてなしができる施設、顔認証システム等の最新の設備が体験できる施設等、近未来をイメージできるデザインになっている。



●本社、研修施設の様子

こちらにも顔認証システムが導入されており、正面大画面で、画像情報解析を見て体験することが可能になっている。



お問い合わせ

詳細については、<https://www.lrqa.com/ja-jp/> をご覧ください。



LRQA リミテッド

〒220-6010 横浜市西区みなとみらい 2-3-1 クイーンズタワー A10 階

本書に示すすべての情報が正確かつ最新であるように、LRQA リミテッドでは細心の注意を払っています。ただし、情報の不正確さや変更について当社は一切の責任を負いません。LRQA は、LRQA Group Limited およびその子会社の商号です。詳細については www.lrqa.com/entities をご参照ください。



YOUR FUTURE. OUR FOCUS.